

とっとりじょうかまちいせき
鳥取城下町遺跡 (薬研堀)

やげんぼり
発掘調査説明会資料

公益財団法人 鳥取市文化財団
鳥取市埋蔵文化財センター

☆はじめに

公益財団法人鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センターでは、鳥取赤十字病院新病棟等増改築工事にともない、今年4月中旬から鳥取城下町遺跡の発掘調査を行っています。調査前、病院敷地を東西方向に横断する旧市道に薬研堀の面影がしのばれていましたが、調査の結果、江戸時代の絵図どおり、江戸時代初期の堀が確認されました。調査も終盤をむかえ、市民の皆さまに遺跡を身近に感じていただきたく、今回現地での発掘調査説明会を企画いたしました。調査および説明会に際し、地元の方々をはじめ鳥取赤十字病院関係の皆様に多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

☆調査の経緯

調査地 鳥取市尚徳町117 鳥取赤十字病院地内
調査期間 平成25年4月16日～平成25年12月上旬(予定)
調査主体 公益財団法人 鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センター
調査面積 805㎡(表面積；下水管理設坑部分を除く)

☆調査の概要

薬研堀の規模 開削時 幅(残存幅)22m、深さ2.2m 幕末期 幅15m 深さ1m弱
開削時期 堀底出土陶磁器の年代観から17世紀前半(古文書の記録と合致)
堀に伴う施設など 杭列、石敷き(護岸)、木柵および石段状遺構、木株(立ち根)
出土品 コンテナ130箱以上
・陶磁器類 皿、碗、鉢、急須、鍋、甕、壺、すり鉢、徳利、火鉢、仏飯具、仏花瓶、香炉、植木鉢、水滴、灯明皿など
・金属器類 かんざし、煙管、古銭、釘、かすがいなど
・ガラス瓶類
・瓦 三巴紋や龍の紋の軒丸瓦、平瓦(刻印瓦含む)、釉薬瓦
・木製品 漆器椀、蓋、杓子、箸、曲げ物、箱、下駄、櫛、木簡、板、杭、部材など

・墨書の認められる木簡および蓋などは50点以上が確認され、鳥取藩第三代藩主池田吉泰を示す「松平右衛門督」の他、人物名が11点ほどあり、そのうち3名については『鳥取藩政資料目録』に記載のある藩士と判明しました。また、「鴨一羽」「鮎切漬」「塩鯛五尾」など暮らしのりかわかります。

☆調査の成果

①これまで絵図と航空写真などからおおよその位置がわかっていた日赤病院地内旧市道部分の薬研堀について、ほぼ絵図どおりに堀を検出しました。自然流路を活かしながらも新たに掘削して堀を整えており、堀底は北東側へ向かって深くなっています。当初の堀幅22m以上、深さ2.2m、護岸の杭列、石敷、石段状の遺構を検出し、時期も出土陶磁器から池田長吉、池田光政時代、17世紀前半と裏付けられました。

②堀から出土した生活用具は江戸時代初期から幕末、昭和初期におよび、これらの出土品から、貴重な窯元の茶碗の出土なども含め当時の人々の暮らしの手掛かりが得られます。

③幕末期の藩政策により奨励された在地窯の陶磁器がまとまった量が出土したことで、在地窯生産や藩振興政策の実態がさらに明らかとなるでしょう。

④名前や年号の記された木簡の中には藩主や藩士名などもみられ、具体的に歴史を語る文字資料であることから、その他の木簡類を含め古文書との照らし合わせなど、今後の展開が期待されます。



上：「安政6(1859)年 鳥取城下全図」
鳥取県立博物館蔵における薬研堀の位置
(『特別展鳥取藩32万石』
鳥取県立博物館2004年より)



中：「安政6(1859)年 鳥取城下全図」
より調査地周辺部拡大



下：調査地周辺航空写真

(鳥取市歴史博物館『特別展ここはご城下
にござる』2010年に一部加筆)



調査地全景（南東上空から）



上：堀底からみた下水本管 下：堀岸の杭列と石敷き



木枅へ下りる石段状の遺構



堀岸の立根

(裏)



(表)



(裏)

七貫五拾目 ■西正月十五日
六箇之内 五

(表)

松平右衛門督様大坂御蔵屋敷ニ而 /
羽田弥左衛門様福住主膳 自 江戸

三代藩主池田吉泰を示す「松平右衛門督」のある木簡

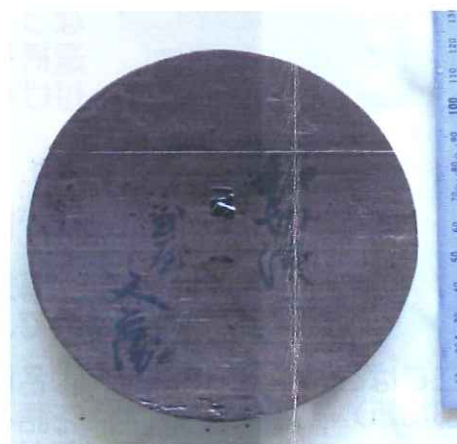


藩士の名前が書かれた木簡

気多郡 野崎政右衛門 羽原兵左衛門



かんざし



鮎切漬の木蓋



下駄



漆塗り椀



茶道用の貴重な茶碗



在地窯産の陶磁器